

平成 25 年度 毛長川流域連絡会（第五期・前期） 活動報告書

毛長川流域連絡会の概要

- 第六建設事務所では、毛長川を地域に活かした親しめる川とするため、流域の皆様や足立区、東京都が情報や意見の交換を行うことを目的として、平成 15 年に毛長川流域連絡会（以下「連絡会」という。）を設置いたしました。
- 連絡会は2年を1期とし原則として年に2回開催しており、平成 25 年度は東日本大震災等の影響で平成 22 年度以降休会していた流域連絡会を第五期の前期として再開し、委員 20 名[都民委員 14 名（団体委員 11 名、公募委員 3 名）、行政委員 6 名]により運営されました。今年度は第 16 回として第五期 1 回目連絡会を開催し、第 17 回は現地視察を実施しました。

平成 25 年度の活動内容

第 16 回流域連絡会

- 日時：25 年 11 月 27 日（水）14：時 00 分から 16 時 00 分
- 場所：竹ノ塚地域学習センター 三階 第一学習室
- 参加人数：都民委員 13 名、行政委員 5 名
- 議題・議事概要

第五期の 1 回目として東京都からの報告事項をもとに、毛長川について意見交換が行われました。



1. 開 会

2. 事務局挨拶

- ・資料の確認
- ・出席者および職員の紹介
- ・毛長川流域連絡会設置要綱についての説明
- ・座長・副座長の選任

3. 議事

(1) 毛長川の整備計画について（事務局）

〈概要〉

- ・毛長川延長 10kmのうち下流 7kmは埼玉県との都県境を流れているため、都と県の協定により 4分割し、区間ごとに都と県で整備を進めている。
- ・整備の進め方は「①鋼管矢板設置」、「②河床掘削」、「③護岸コンクリート被覆」「④緑化修景」の順番で整備していく。
- ・下流から見沼代用水（砂小橋・舎人橋付近）までの東京都施工区間の「①鋼管矢板」が完了している。
- ・また、「②河床掘削」については下流から順に進めており、現在は毛長橋の上流付近で施工中である。
- ・これまでは治水整備に主眼を置き進めてきたが、今後は景観に配慮して、「③護岸コンクリート被覆」を行い、「④緑化修景」を検討する予定である。
- ・河川整備の基本となる「河川法」が平成 9年に改正され、この中で「環境に配慮した整備計画」を行うこととなったため、東京都としても極力それらを考慮して、整備を進める予定である。
- ・また、今後の流域連絡会の中でも、意見を聞きながら整備を進めていくつもりである。

〈質疑・意見〉

（団体委員）現在の鋼管矢板が露出した状態で随分経つが、「③護岸コンクリート被覆」は行う予定はあるのか？

（事務局）これまでは治水整備を先行し、「①鋼管矢板設置」、「②河床掘削」を行ってきたが、今後は「③護岸コンクリート被覆」、「④緑化修景」についても検討していきたい。

（団体委員）鋼管矢板の耐用年数はどれくらいあるのか？

（事務局）50年～60年位の耐用年数は見込んでいる。

（団体委員）コンクリートで被覆すると何年位になるのか？コンクリート被覆するのは景観のためだけなのか？

（事務局）構造上コンクリート被覆が無くても安全であるが、景観上のほか防食性は期待できる。

(2) 毛長川の整備工事について

〈概要〉

- ・毛長川下流から工事を進め、これまでに約 10本の河床掘削工事を行った。
- ・工事の目的は、川の水の流れる面積（断面積）を確保する事や、堆積した泥を除去することによる環境改善を期待するものである。
- ・工事内容は、現況の河床から最大で約 2mの深さで掘り下げ、全体掘削量は 6,360 m³となっている。
- ・今年度は毛長橋の上流部（約 250m）の区間で工事を行う。
- ・工事期間は平成 25年 10月から平成 26年 3月で、作業時間は昼間施工で行う。一部（約 6日程度）、工事用機械の搬入等で夜間の作業が伴う。
- ・工事について何かあれば、資料中に記載の連絡先や作業所、六建に連絡いただきたい。

〈質疑・意見〉

（団体委員）東京都施工と埼玉県施工で区間が分かれており、過去に行った埼玉県施工の際に、埼玉県から説明が無かった事から埼玉県からの説明をいただけないか？

（事務局）河川工事は基本的に下流から施工する事となり、議題－1で説明したとおり現在は、下流側の「東京都施工区間」から「埼玉県施工区間」の「①鋼管矢板設置」と「②河床掘

削」を経て東京都施工区間の「②河床掘削」を施工中である。今後、「③護岸コンクリート被覆」の施工となるが、毛長川全体を通した中で考えていく事となるため、東京都と埼玉県で調整していきたいと考えている。

(団体委員) 下流側の「東京都施工」「埼玉県施工」までの区間は工事完了ということによろしいのか？

(埼玉県) 東京都の資料中にある、「1時間 50mm 対応」ということで「①鋼管矢板設置」、「②河床掘削」については埼玉県施工区間も施工済みである。施工順序については、東京都から説明のあったとおりである。

(3) 毛長川魚類調査結果について (情報提供) (足立区)

〈概要〉

- ・平成元年から平成 24 年までの水質調査結果については、年ごとのばらつきはあるものの、平成 18 年からは DO (溶存酸素量)、BOD (生物化学的酸素要求量) の両値について良好な状態の傾向を示し、平成 24 年には DO が 7～8mg/1、BOD が 3～4mg/1 程度となっている。
- ・以上の水質調査結果を受けて、魚类等調査結果について報告する。
- ・足立区は河川に囲まれた環境であり、これら河川について魚類の生息調査を行っている。
- ・この調査結果から、毛長川についてはニホンウナギ等の 19 種の魚類が確認されているが、その中には特定外来種とされているものも含まれている。
- ・毛長川は調査対象河川の中では一番多くの種類の魚類が確認されている。
- ・資料中の経年変化から、足立区全体として見ても確認される魚類の種類は増加傾向を示しており、下水の整備等によって水質の改善がされていると思われる。
- ・全体としてはナマズやクロサギ等が新たに確認されており、重要種や外来種も毎年、継続して確認されている。
- ・毛長川や荒川では昨年度と比べ、確認種類が顕著に増加しており、他の河川でも 5 年前と比較すると増加している。

〈質疑・意見〉

(団体委員) 調査結果では毛長川ではニホンのナマズは確認されておらず、水質が完全に良好な状態とも言えないようだが？それと、先ほど説明のあった工事により、アシ等の魚類の生息環境への影響が懸念されるがいかがなものか？

(足立区) ナマズについては他の河川で確認されている。毛長川はその河川より水質が良好である事から魚類調査で今後確認される可能性もある。

(事務局) 工事に際してアシを除去してしまうこともあるが、毛長川の整備では河床をコンクリート張りなどはせず、極力自然の状態を維持させるように工夫している。

(団体委員) 護岸工事の影響か不明だがネズミが発生しており、工事が自然環境に与える影響を実感している。

(団体委員) 40 年くらい前はドブの匂いがしていたが、現在の埼玉県側の下水整備状況はどうなっているのか？

(足立区) 毛長川沿川ではないが、八潮市全体で 70%位と聞いている。

(団体委員) 未整備区域では、まだ毛長川に直接排水をしているのか？

(足立区) 下水の普及と浄化槽整備等によりだいぶ改善されていると思われる。台所等の生活排水は直接排水されている可能性はある。

(4) 毛長川周辺の水防体制について（足立区）

〈概要〉

- ・足立区では気象警報や異常気象情報が出た場合等に、水防本部を都市建設部に立上げ水防にあたる。
- ・水防態勢時は、水防上注意を要する箇所等の巡回監視等を行い水害に備えている。
- ・近年の毛長川では溢水することはほとんど無くなったが、万が一に備え水防資器材を備蓄している。
- ・今年の台風26号において、「床上浸水」や「床下浸水」までにはならなかったが、舎人二ツ橋付近での被害は認められた。
- ・この箇所は溢水の実績もある事から、足立区も警戒している箇所である。この時の雨量が200mmを超えていた事に加え潮位の影響もあったためと思われるが、区や市の水防団体により処置を行っている。
- ・このように、何かあれば土のうを積む等の処置を行い、また、必要に応じて土のうの支給も行っている。
- ・足立区のAメールに登録する事により、気象警報情報の発信や土のう配布準備情報も発信しているので活用願いたい。

〈質疑・意見〉

(団体委員) 東京都も埼玉も同じ対応になると考えていいのか？

(足立区) 基本的には自治体ごとの対応になる。先の台風時は草加市の水防活動と連携して活動した実績もある。

(団体委員) 旧古千谷橋排水場は区所管のようだが何に使っているのか？

(足立区) 現在は排水場としての機能はなく倉庫として使っているが、活用方法についてご意見があればこの場ででも提案いただければ、今後の利用計画の参考とさせていただきたい。

(公募委員) 水位観測地点ごとのデータはあるが、橋桁や護岸天端からどれくらいの余裕があるのか？この前の大雨（台風26号、27号）の時の水位は測っているのか？また、資料中の「50mm/h」や「355mm/48h」とは何を意味している数値なのか？

(事務局) 台風27号では六建で計測している「鷲宮橋」付近では、護岸の天端から約45cm下がりまで水位は上昇した。また「50mm/h」や「355mm/48h」は時間当たりあるいは2日間当たりの雨量を示している。先の台風時では毛長川整備計画の暫定計画である「217mm/48h」に近い降雨であった。水位観測地点の中間にある橋梁部は、桁が低いこともあり水面が桁に接触していた箇所もある。

(河川部) 「50mm/h」は1時間のうちのピーク時に50mmのいわゆる集中豪雨と考えられる。また、「217mm/48h」は流域全体に長時間にわたる雨量で、10年に1回程度を想定した数値となっている。なお、100年に1回程度を想定した降雨が「355mm/48h」となっている。以上のことから、現段階では暫定計画としている「217mm/48h」対応として施工を進め、将来的には下流から「355mm/48h」に対応することとなっている。

(団体委員) 「鷲宮橋」の上流ではどうなのか？

(事務局) その上流では「毛長橋」付近でも計測を行っており、その結果はリアルタイムで水防災システムにより配信されているので、パソコンや携帯電話等で確認する事ができる。

(団体委員) このような機会にでも、直近に起きた大雨の時の水位が「堤防の天端からどれくらいの低さまで水位が上昇したか」わかるような資料があるとありがたい。

(団体委員) 説明で出てくる、「A.P.」について詳しく説明して欲しい。

(事務局) 今後、大雨の時の水位については資料等で情報を提供していきたい。

(河川部) A.P. とは、荒川の一番低い時の水位を0mとしている基準高さのひとつである。したがって満潮のときの水面の高さにするとA.P. 2.00mくらいとなる。よく言われる標高とは海面が潮の干満で変動する平均値を基準の高さとしたものでT.P. という基準高さになっており、標高0m (T.P. = 0m) は) A.P. = 0mより1m位高くなっている。

(団体委員) 護岸のコンクリート張りは構造物として必要であれば仕方ないが、景観的には疑問を感じるがどうだろうか？

(事務局) コンクリート被覆がなくても護岸の構造上問題はないが、景観上のほか防食性も期待している。現段階では一般的な護岸としてこのような被覆を考えており、同様に将来計画の緑化も一般的な形の資料となっている。今後、この連絡会で見られる意見や埼玉県と調整しながら構造を含めた整備方法について検討していきたいと考えている。

(団体委員) 花畑大橋と鷺宮橋の間に計画のある橋りょうについて状況を教えていただきたい。

(事務局) 都市計画道路の一部として新花畑橋(仮称)を建設する計画がある。当該地の一部については用地の確保が出来ていることから、早くて来年度位からは工事に着手できる見込みとなっている。全体的な予定としては、完了までに4～5年は掛かると予想される。

(5) その他 次回流域連絡会について (事務局)

〈概要〉

- ・これまでの流域連絡会は年2回開催し、そのうち1回は現場の視察としてさまざまな施設を視察している。
- ・今回の流域連絡会の議題に「水防」「防災」に関連した議題もあり、次回の流域連絡会は「建設局の水門管理センター」を考えている。
- ・時期としては2月位の開催を考えている。

4. 閉 会

第17回流域連絡会（現場視察）

- 日時：平成26年2月24日（月）11時35分から15時30分
- 参加人数：都民委員9名、行政委員4名
- 行程：「竹ノ塚駅前交番」前～外郭放水路（龍Q館）～「竹ノ塚駅前交番」 ※マイクロバスで移動

1. 開会

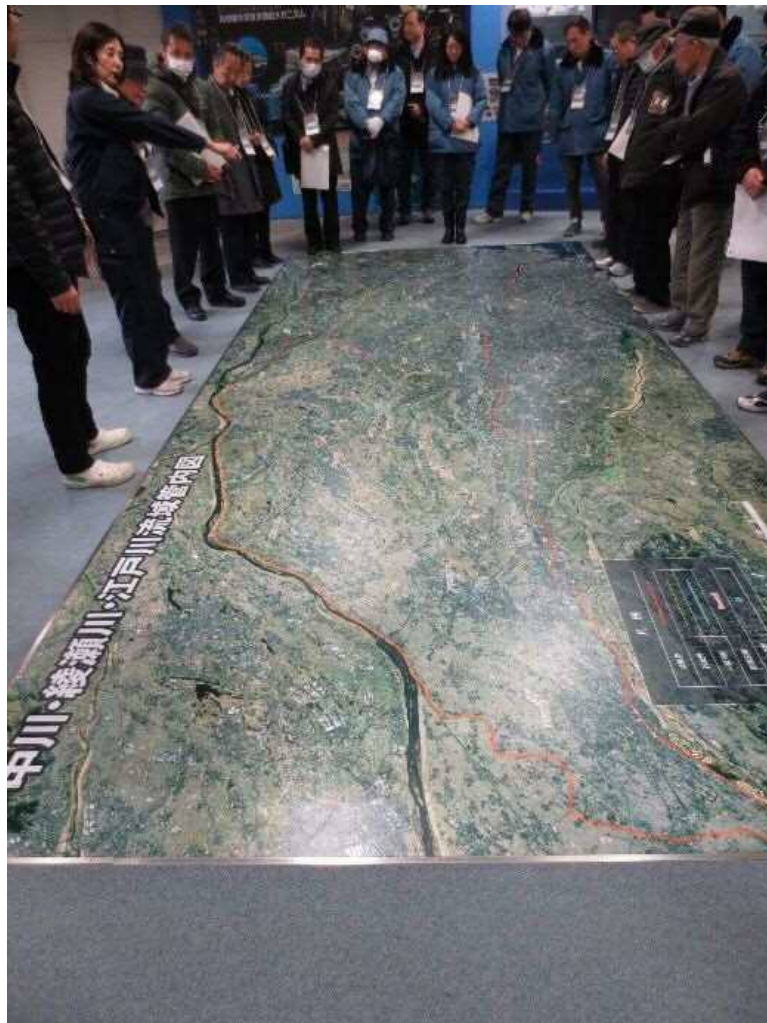
2. 現場視察

首都圏外郭放水路（龍Q館）

〈概要〉

- ・この施設は六建管内を流れる毛長川をはじめ、綾瀬川・中川の上流域に降った雨を一時貯留し、水害を防ぐ施設である。

また、施設の一部である「調圧水槽」は、地下に整備された長さ7m、幅2m、高さ18mの柱が59本で構築されており、その規模と光景から「地下神殿」として各種メディアにも紹介されている施設となる。



江戸川河川事務所管内パネルにて概要の説明



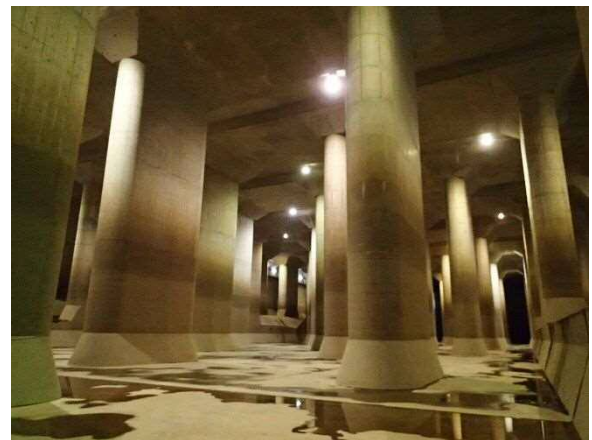
ビデオ説明



施設全体模型



龍Q館屋上にて



調圧水槽の視察

3. 前回連絡会の補足説明

前回の連絡会の補足を資料により説明した。

- A.P. と T.P. について

T.P. (Tokyo Peil) とは高さを表す「標高」とも呼ばれるもので、東京都中央区新川にある壺岸島水位観測所の東京湾の平均海面を0mと定めたもの。A.P. (Arakawa Peil) とは地域別に設定されている高さを表す基準面であり、T.P. が平均海面を0mと設定しているのに対し、A.P. は最低水位を0mと設定している。これは、「工事を行う上で最低水位を基準としたほうが便利だから」。ほかに「利根川・江戸川水系のY.P.」「淀川水系のO.P.」など地方ごとに工事基準面が定められている旨を説明した。

- 「大雨時の情報提供（10月15日～16日の台風26号）」

下流側の（鷺宮橋）について、最大雨量を記録した時刻が10月16日の5時30分であった事、その時の雨量が37mm/hであった事、そして台風26号による累計雨量が211mmであった事の説明をした。さらに、鷺宮橋付近の堤防の天端の高さはA.P. で3.99mであること、最高水位を記録した時刻は10月16日の6時30分であり、その時の水位が、堤防の天端から40cm下がりであった事が確認できる旨を説明した。

4. 閉会